

議員（兼若 幸一）

4番 兼若 幸一、一般質問させていただきます。

優しさがあふれる町、多度津を目指し、1年生議員として一生懸命務めさせていただきます。

質問事項は、1つ、多度津中学校に関して、2つ目、豊原校区四つ葉クラブ施設についてです。一問一答方式にてさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず最初に、多度津中学校に関してで、私立中学校等への進学流出対策についてお伺いしたいと思います。

私の調べたところ、多度津中学生1年生の生徒数が2018年183人、2017年186人、2016年175人ではありますが、毎年20名から30名の新1年生が理由は今まで私が聞いたところによりますと、給食を普通に食べたい、また高校受験をしなくていい、またスポーツで全国大会に進みたいなどの勉強やスポーツのために、本人また保護者の考え方や思いにより、多度津中学校へは進学されていないのが実情であります。現在少子化に伴い、多度津の人口が減っている状況でありますので、将来多度津町を愛し、また多度津に住みたくなる若者を増やすためにも、是非とも地元の多度津中学校へ進みたいと思う施策についてお伺いいたします。よろしくお願い致します。

教育長（田尾 勝）

兼若議員の私立中学校への進学流出対策についてのご質問に答弁させていただきます。

まず、多度津町内の小学校から多度津中学校へ進学しないで、他の学校へ進学した児童の実態をまずお知らせします。

他の学校とは、私立中学校、香川大学の附属中学校、養護学校、他の町外の公立の中学校に分類できます。そのうち、私立中学校については平成25年は37名、平成26年は28名、平成27年は27名、平成28年は21名、平成29年は13名、平成30年は21名、最近では20名程度の児童が私立中学校に進学しているという状態です。公立の中学校、私立の中学校に入学するかどうかは、本人及び保護者の方々の選択となります。私立中学校を選択したのは、本人及び保護者の願い、部活動、友人関係、家庭の諸事情、様々な理由によるものと推測されます。教育委員会としては、義務教育段階では地元にある中学校を選択してもらいたいというふうに考えております。そのため、中学校は本人や保護者から選ばれる取り組みを行い、その取り組みを教育委員会としても支援していきたいと考えています。

そこに向けて、公立中学校としては当たり前のことなのですけれども、特に力を入れて取り組んでいることを2つ申し上げたいと思います。

1番目は、教育の質を高めることです。PDCAサイクルを機能化させ、その見える化を通して、教育経営、教育活動改善を図っております。中でも、公開と評価の場を充実させようとしています。行事はもちろんのこと、朝の挨拶運動での生徒への応援、積極的な授業公開などを行っています。学校の中で最も大切としている授業については、毎年研究指定を受け、生徒の学力向上に向けて、全教職員が一丸となって研究的な態度で授業実践を行っています。

また、全生徒と保護者に対し、定期的な教育評価を実施しており、それとともに、学校評価委員の方々にも活躍の場を与えています。また、それらの成果もあって、近年は安定した学校経営が行われ、保護者の学校評価も良好となっております。生徒の学力は向上傾向にあると言えます。

2番目は、地域の人々から信頼される学校づくりに努めていることです。そのため、中学生の姿で地域に発信、中学校への希望を持たせる小・中の連携、コミュニティ・スクール化の推進で地域から信頼される学校づくりに努めています。

そのうちの1つ、中学生の姿についてです。

町民の方々のニーズに応えることは大切ですが、それ以上に中学生の姿を通して、中学校の良さを発信出来ることが大切だと考えています。最近では、中学生が地域に出向き、演奏会を開いたり自発的にボランティア活動や地域貢献に加わったりする機会が増えています。このことも学校のイメージアップにつながる取り組みだと考えます。

2つ目は、小・中の連携を図ることです。

これは、町の教育委員会の基本方針の一つでもあります。小学生に中学校への希望を持たせるとともに、小・中の接続を滑らかにする事業です。町内の研修会での教職員の幼・小・中の交流はもちろんのこと、生徒会を中心とした中学生による全ての小学校への訪問など、児童・生徒の交流の場を作っています。さらに、本年度より中学校の英語科の教員が全ての小学校を訪問し、外国語活動の支援、指導を行っています。

3つ目は、コミュニティ・スクール化です。

地域の学校としての特色を生かし、地域の人々とともにある学校づくりを進めていこうとしています。他人事ではなく、私たちの地域の中学校という意識を持っていただけるよう中学校の運営について、地域の方々にも参画してもらい、地域に支えられた中学校にしたいと考えております。

こうした取り組みを通じて、将来多度津町に住みたくなる若者が増えるようになればと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

ただいま非常に分かりやすいご答弁をいただきましたが、その中で再質問をさせていただきたいと思います。

まず1つ目は、答弁の中の教育の質を高めることです。PDCAサイクルを機能させるとご答弁いただきましたが、PDCAの具体的な意味をお示しいたきたいのと、近年は安定した学校経営が行われ・・・。

議長（村井 勉）

兼若君、一問一答で。

議員（兼若 幸一）

はい、失礼します。

それでは、PDCAの意味をお示してください。

教育長（田尾 勝）

兼若議員の再質問にお答えします。

PDCAということですが、プラン、ドゥ、チェック、アクションということの頭文字でPDCAということで、具体的に言いますと、まず初めに、プランですから、学校を本年度はこういうような中学校だったら中学校の経営をやる、こういう目標でこうやるということの計画を立てて、実際教育実践を行って、自己評価もあるんですけども、保護者とか地域の方々にも評価していただいて、そしてその評価をもとに、謙虚になって次のアクションを起こす、次の改善に向けて実践していくというようなサイクルをしっかりと、それがまた保護者の方にもこういうふうに学校はしているんだなということが見える形にしていきたいなというふうに考えております。

以上です。

議員（兼若 幸一）

先ほどは失礼しました。

再質問です。

それらの成果もあって、近年は安定した学校経営が行われという、学校経営というふうな言葉を使われているんですが、これは学校運営が適切な言葉ではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

教育長（田尾 勝）

再質問にお答えします。

学校を捉えた時に、もちろん学校は教育という事柄と同時に、経営的な視点というのも学校運営をする上で大切だと思います。特に管理職の経営的な視点というのは大切だと思います。その視点から見たときに、教育経営がなされているということでもあります。とにかく経営と教育実践というのは、両方が両輪のごとく機能することで学校が安定するというふうに考えております。

以上です。

議員（兼若 幸一）

分かりました。

再質問ですが、最近中学生が地域に出向き、演奏会を開いたり自発的にボランティア活動や地域貢献に加わったりする機会が増えていると答弁いただきましたが、具体的な事例をお示してください。

教育長（田尾 勝）

再質問にお答えします。

中学校ではこれまで学校行事の一環として学校が中心になって、例えば地域のボランティアの計画を立てるということが中心であったんですけども、この何年かは具体的に言うと、中学生の中から地域貢献とか親切運動を展開しようということで「ミルフィーユ隊」という小さな親切運動の運動団体を作って、子供の自主的な活動で始まった団体があります。そういうことがその「ミルフィーユ隊」は単に親切運動をするだけではなくて、地域に例えば合田邸の清掃活動と一緒に入ったり、あるいは資料館での支援をしたりということで色々な地域に出向いて奉仕活動を行っている。子供たちが自主的にそういう運動に関わっていているというところを評価したいなというふうに私は思っています。以上です。

議員（兼若 幸一）

分かりました。

次の質問に移りたいと思います。

英語圏への国際交流開催予定についてお伺いしたいと思います。

多度津町の国際交流事業として、約20年間の長きにわたり、中国上海市の普陀区への間で友好交流事業を行ってきましたが、その中で多度津中学生も1995年、平成7年8月に約10名が「普陀区への翼」として初めて普陀区を訪問し、その中学生との交流やホームステイなどを体験してまいりましたが、2010年、平成22年8月の「第13回多度津町小・中学生普陀区への翼」をもって、国際的な情勢不安などを理由に中断したままの状態であります。

小学校においても外国語の教科化が予定されている中で、英語圏への国際交流を開催し、小・中学生間の交流やホームステイなどで感性豊かな人間形成に努める必要があると思いますが、その予定についてお伺いいたします。

教育長（田尾 勝）

兼若議員の英語圏への国際交流開催予定についてのご質問について答弁させていただきます。

平成22年度まで実施しておりました中国普陀区との小・中学生の交流につきましては、まず行政間で信頼関係を築いた上で派遣、交流を続けてきたものでした。そのため、派遣する児童及び生徒等の現地での安全確保がある程度担保出

来ている事業でございました。

議員ご指摘のような英語圏への国際交流の実施につきましては、早急な実施は安全確保の面から一抹の不安があり、慎重に進めていく必要があると思います。小学校においても、外国語の教科化が予定されている中で、異なる文化との多様な交流を図るホームステイ等の国際交流は有効と考えられますことから、町国際交流協会等の関係団体と協議を行い、再開に向けた情報収集や協議を行ってまいります。

また、小・中学校の学校現場の国際交流につきましては、引き続き外国語指導助手、日本人英語指導員の協力を得ながら、外国語に親しむ環境づくりの促進を図るとともに、小学校現場の外国語活動においては、昨年度と同様に授業時間を確保するなどして、中学校の英語科教員も加わりながら、外国語活動の拡充と教科化に向けて先行実施をしてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

私立中学では、1カ月間ほどオーストラリアなどへの英語圏へホームステイをされている中学校もあるようです。魅力ある多度津中学校にするため、また先ほど最初に質問しました私立中学校への流出対策としても、是非とも英語圏への国際交流というのを早期に実施してほしいと要望いたしますので、またご検討をいただきたいと思います。

次、2つ目の豊原校区四つ葉クラブ施設についてご質問をしたいと思います。町長の施政方針の中で、子育てをしやすい環境づくりとありまして、その中の項目の中に小学生のいる世帯への就労支援については、四箇小学校と豊原校区においても新たな放課後児童クラブを開設し、町内全ての小学校高学年の利用を開始します、今後とも各区児童館や放課後児童クラブにおいて、安全に配慮しつつ、児童の健全な育成を図るとともに保護者が安心して就労できる環境づくりに努めてまいりますとありました。平成30年の第2回6月定例会でも審議されている案件でもありますが、まず1つ目、豊原校区四つ葉クラブの施設の職員雇用人数予定と雇用形態、また募集方法、その応募状況についてお伺いいたします。

町長（丸尾 幸雄）

兼若議員の豊原校区四つ葉クラブの職員雇用人数の予定と雇用形態、募集方法、及び応募状況についてのご質問に答弁をさせていただきます。

豊原校区四つ葉クラブにつきましては、高学年の受け入れを可能とするため、今年度新たに建設をし、来年度の新学期が始まる4月8日から開設をいたします。放課後児童クラブの職員体制につきましては、国の定める基準で、教員免許や保育士等の資格を持ち、県が行う研修を修了した者を1クラスにつき2人

以上配置すること、ただしそのうち1人は資格を持たない補助員をもってかえることが出来るとなっております。豊原校区四つ葉クラブにつきましては2クラス整備しておりますので、1クラスにつき有資格者を1名、補助員を1名配置し、施設全体では4名の職員を配置する予定でございます。

施設の運営につきましては、多度津町社会福祉協議会に委託をしているため、職員の募集につきましても社会福祉協議会がハローワークを通して行っております。職員は社会福祉協議会の職員として採用され、有資格者は月給制の有期契約職員で1年ごとの更新制であり、補助員につきましては時給制となっております。

応募状況でございますが、有資格者につきましては、既に2名が確保されておりますが、補助員の応募は現在1名であり、引き続き募集を行ってまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

分かりました。最近、働き手が非常に少ない状況ですので、引き続き募集をしていただきたいと思います。

次、2つ目の質問に移らさせていただきます。

職員駐車場及び送迎保護者駐車場についての質問でございます。

豊原校区四つ葉クラブの施設の近隣は、近年非常に住宅化が進んでおり、また周辺道路は交通量も大変多いのですが、道路幅が広いとは言えず、道路への駐車は交通障害を招くだけでなく交通事故を起こす要因ともなりますので、駐車場の確保は必要と思いますが、どれだけ確保出来ているのかお伺いいたします。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

兼若議員の職員駐車場及び送迎保護者駐車場についてのご質問に答弁をさせていただきます。

現在、低学年の放課後児童クラブを実施しております豊原児童館には駐車場がなく、子供の送迎が重なると周辺道路が混雑する状況でございます。そこで、豊原校区四つ葉クラブの建設に伴い、四つ葉クラブ敷地内に駐車スペースを3台分確保いたしました。また、職員につきましては、豊原小学校プール南側の学校用地を職員駐車場として確保しておりますが、若干スペースに余裕があるため、送迎時の保護者にもご利用いただけるようになっております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

ただいまの答弁の再質問でございます。

答弁の中で駐車スペースを3台分確保いたしましたとありましたが、豊原校区四つ葉クラブの受け入れ児童予定人数からして、保護者の送迎駐車場スペース

3台で十分とお考えなのでしょうか。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

兼若議員の再質問にお答えいたします。

現在、新年度の応募状況でございますが、低学年、高学年を合わせまして83名の予定となっております。確かにご指摘のとおり、3台では少ないと思いますが、現在議員ご指摘のとおり、周りは住宅地でございます。新たに駐車場を確保するという土地はございません。社会福祉協議会を通して近隣の迷惑にならないよう、交通事故が起こらないように周知をしてまいる所存でございます。駐車スペースにつきまして、豊原小学校のプール用地を職員用として使っておりますけれども、送迎時には職員の車を移動するなど工夫をしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

再々質問で申し訳ありませんが、豊原幼稚園の送迎時を見られたことがありますか。今、豊原幼稚園の駐車スペースは3台どころか十何台、さらに前の飲食店の駐車場をお借りして駐車スペースはかなり広いんですが、それでもあのあたりは、ちょうど迎えの時間帯になると交通障害を起こしております。受け入れ児童数が83名、皆さん同時時間帯に来られるとは考えにくいのですが、それで3台分で本当に大丈夫なのでしょうか。それと、そういった注意を促すだけでトラブル等は起こらないのでしょうか。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

兼若議員の再質問にお答えいたします。

確かに駐車スペースは少ないと感じております。今後、近隣の状況を見ながら駐車スペースの確保を検討してまいりたいと思っておりますが、今後、社会福祉協議会とも協議しながら進めてまいりたいと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

地元住民並びにやはり一番怖いのが交通事故ですので、それに十分配慮したことを今後來年の4月まで十分ご検討いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

最後の質問に移りたいと思っております。

小学校の農園の耕作面積確保についてご質問いたします。

豊原校区四つ葉クラブ施設は、豊原小学校農園の農地に施設を増設したために、農園が非常に狭くなっております。土いじりや作物育成など自然体験や、また地域ボランティアと関わることによって、心豊かな児童を育てるため、また優しさを育むためには、農園耕作面積を確保していただきたいと思っております。

が、いかがでしょうか。

教育課長（竹田 光芳）

兼若議員の小学校農園耕作面積確保についてのご質問に答弁をさせていただきます。

現在、豊原小学校四つ葉クラブを建築しております用地につきましては、小学校1、2年生の体験活動の場としての学校農園や倉庫として使用しております。施設の設置場所を検討する際には豊原小学校との協議も行い、その必要面積を確保した上で施設を建設したものでございます。教育委員会といたしましても、お米学習等の地域の方々のご協力をいただく体験活動の重要性は認識してございますので、今後もボランティアの方々のご協力をいただきながら、様々な体験活動を実施してまいろうと考えてございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（兼若 幸一）

分かりました。小学校との十分な打ち合わせの上、今の面積にされているということなので、十分理解出来ました。

以上で私の質問を終わりたいと思います。非常に具体的な数字また丁寧なご答弁をいただき、誠にありがとうございました。

議長（村井 勉）

これをもって4番 兼若 幸一議員の質問は終わります。